

CLIPPEDIMAGE= JP357183707A
PAT-NO: JP357183707A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 57183707 A
TITLE: COSMETIC

PUBN-DATE: November 12, 1982

INVENTOR-INFORMATION:

NAME
YOKOI, TOKIYA
SHIMIZU, KATSURA

ASSIGNEE-INFORMATION:

| | |
|-----------------|---------|
| NAME | COUNTRY |
| SHISEIDO CO LTD | N/A |

APPL-NO: JP56067290
APPL-DATE: May 2, 1981

INT-CL_(IPC): A61K007/00
US-CL-CURRENT: 514/390

ABSTRACT:

PURPOSE: A cosmetic, prepared by incorporating hyaluronic acid (salt) and allantoin (derivative) with a cosmetic base, having improved promoting effect on wound cure and preventing effect on the skin roughness, and suitable for use after shaving, chaps, etc.

CONSTITUTION: A cosmetic prepared by incorporating a cosmetic base with hyaluronic acid and/or a salt thereof and allantoin and/or a derivative thereof. The amount of the hyaluronic acid and a salt thereof is 0.01~3.0%, preferably 0.05~1.0%, and sodium salt, potassium salt, etc. may be used as the salt of the hyaluronic acid. The amount of the allantoin is 0.01~5.0%, preferably 0.1~3.0%, and dihydroxyaluminum allantoinate, etc. may be used as the derivative of the allantoin. A material used as components in the cosmetic, e.g. a surfactant, oil or humectant, is used as the cosmetic base.

COPYRIGHT: (C)1982,JPO&Japio

⑫ 公開特許公報 (A)

昭57-183707

⑪ Int. Cl.³
A 61 K 7/00

識別記号

庁内整理番号
7432-4C

⑬ 公開 昭和57年(1982)11月12日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑭ 化粧料

①特 願 昭56-67290
 ②出 願 昭56(1981)5月2日
 ③発 明 者 横井時也
 横浜市磯子区洋光台3丁目16番
 地の12号

④発 明 者 清水桂
 横浜市緑区白山町1375番地の13
 号
 ⑤出 願 人 株式会社資生堂
 東京都中央区銀座7丁目5番5
 号

明 細 書

1. 発明の名称

化粧料

2. 特許請求の範囲

化粧料基剤に、ヒアルロン酸及び/又はその塩類
 並びにアラントイン及び/又はその誘導体を配合
 することを特徴とする化粧料。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、化粧料基剤に、ヒアルロン酸及び/
 又はその塩類、並びにアラントイン及び/又はそ
 の誘導体を配合することにより、創傷治癒に対し
 て優れた効果を有する皮膚又は頭皮用の化粧料に
 係るものである。

従来、アラントイン又はその誘導体の数種類は皮
 膚科の諸疾患の治療薬として、又化粧品工業の原
 料として利用されている。しかしながら、アラン
 トイン、アラントイン誘導体が化粧料、医薬部外
 品、例えばアルコール性ローション、クリーム、
 乳液及び化粧水等に0.01~20重量%程度配合す
 る例が見られるが、これらの有効成分を配合した

化粧料を実際使用する場合に、同時に配合される
 薬剤、界面活性剤、香料等の影響を受けて、その
 効果が十分に現われていないことが多い。

また、従来、ヒアルロン酸については皮膚を透過
 して組織中に吸収せられ結合組織を安定賦活し末梢
 血管を拡張して血液の循環を改善し中間代謝を旺
 盛となし栄養の供給、老廃物の排泄を亢進し皮膚
 の組織を健康にして色艶をよくし、きめをこまか
 くするという考え方の^下に細胞を賦活する化粧料
 (特公昭33-500)が知られている。しかしなが
 ら、近年ヒアルロン酸に関する研究が明らかにな
 るにつれ、詳細な作用効果がわかってきた。即ち、
 ヒアルロン酸は、分子量50万~200万を持つ高分
 子物質であり、化粧品に配合されている保湿剤に
 比較して保湿能力が高く、理論的にg当り800ml
 以上の水分を保持することが可能といわれている。
 又、ヒアルロン酸は、皮膚の上に薄い被膜をつく
 る性質を持っているが、この^被膜は、非常に皮膚
 への親和性がよく、異和感のない膜であるが、こ
 の膜が水分の保持の持続と、皮膚の保護に役立つ

酸を単にそのまま各種化粧料に配合しただけでは、低粘化、加水分解、溶解度の減少等 理化学的変化とともに、皮膚上の被膜持続並びに保湿作用が低下し、従って皮膚（肌）の荒れ防止に十分でない。

（以下余白）

しての効果が期待できない。

又、アラントインの誘導体としては、ジヒドロキシアルミニウムアラントイネート、クロロヒドロキシアルミニウムアラントイネート等が使われる。本発明の化粧料はヒアルロン酸及び／又はその塩類とアラントイン及び／又はその誘導体が併用されることによって、創傷に対してこれら成分が相乗的に作用し、その治癒を顕著に促進することが知見された。しかも、本発明によれば創傷治癒に対して抑制的に作用するような基剤を用いても優れた創傷治癒効果を有する。従って、所望の基剤を選択使用して目的に適合した化粧料の処方容易につくることができ、製造がし易い。

（以下余白）

従来になく優れた化粧料を得んとし鋭意研究した結果、本発明を完成した。即ち、ヒアルロン酸及び／又はその塩類とアラントイン及び／又はその誘導体を併用して、化粧料基剤に配合することにより、皮膚の創傷治癒並びに肌荒れ防止に効果的に作用する化粧料を開発した。

本発明に使用されるヒアルロン酸及びその塩類の配合量は 0.01 ～ 30 % で好ましくは 0.05 ～ 1.0 % である。これより含有量が多い場合には皮膚上に厚い被膜を形成し皮膚との親和性に欠ける。且つ、ドロドロ状態になるので化粧料としての安定性が損われる。又、逆に少ない場合には化粧料として、ヒアルロン酸及び／又はその塩類の充分な効果が期待できない。

ヒアルロン酸の塩類としてはヒアルロン酸ナトリウム、ヒアルロン酸カリウム等が使われる。

又、アラントイン及びその誘導体の配合量は 0.01 ～ 50 %、好ましくは 0.1 ～ 30 % である。

これより、含有量が多くても、少くても化粧料と

又、化粧料基剤としては、界面活性剤、油分、保湿剤、紫外線吸収剤、アルコール類、キレート剤、pH調整剤、防腐剤、増粘剤、色素、香料等一般に化粧品の成分に使用されるものが選ばれる。

本発明の化粧料は栄養クリーム、ハンドクリーム、ボディクリーム、マッサージクリーム等のクリーム類、栄養乳液類、パック類、化粧水類等の皮膚化粧料は勿論、頭髪化粧料特に頭皮（スカルプ）用トリートメントの化粧料として有益である。

このように、本発明の化粧料は創傷治癒促進効果が優れているため、ひげ剃り後、シャンプー後爪で損傷した頭皮、ひび、あかざれ、肌あれなどに好適に使用することができる。

次に、創傷治癒試験例を示して肌荒れ効果を具体的に説明する。

実施例 1

（試験方法）

生後 6 週齢のウイスター系ラット（SPF）を 4 匹 1 群とし、毛刈の後試験に供した。ラットはケンプタールにより麻酔後正中線にそって、約

2 cm 背部皮膚を切開し、たこらの切開部をミッセル縫合器により縫合した。

縫合後、試料 0.1 ml を 1 日 1 回、2 週間に渡り、切開部に塗布した。

2 週間後、ラットを犠殺し、縫合針を外した後断面 1 cm となるように皮膚切片を作成した。張力測定にはテンシロン (Tensilon) UTM-4 (東京測定器株式会社製) を用い皮膚切片の切断張力を測定した。

なお、アラントインは 0.2%、ヒアルロン酸は、0.1、0.5% 生食溶液とし、コントロールは生理食塩水を塗布した。

結果を第 1 表に示す。

(以下 余 白)

| | 平均張力 (g/cm) |
|--------------------------------------|-------------|
| 本発明品 (ヒアルロン酸 0.1% アラントイン 0.2%) | 400 |
| (ヒアルロン酸 0.1% アラントイン 0.5%) | 421 |
| 比較品 ヒアルロン酸 0.1% | 370 |
| ヒアルロン酸 0.5% | 365 |
| アラントイン 0.2% | 355 |
| コントロール | 280 |

第 1 表の結果から、0.2% アラントイン塗布部位は無塗布位 (コントロール) に比べ張力が増加し、修復力の促進効果が認められ、同様にヒアルロン酸 0.1%、0.5% 塗布においても張力の増加が観察されたが、濃度依存性は観察されなかった。一方、ヒアルロン酸とアラントイン併用の本発明品の場合は、各々単品塗布の比較品に比べ、張力に増加傾向が認められ、顕著な治癒促進効果が認められた。又、ヒアルロン酸とジヒドロキシアルミニウムアラントインートの併用も顕著な治癒促進効果が認められた。

また、以上の動物試験だけでなく、人体ベネルの場合もこのヒアルロン酸及び^{1/24}その塩類並びにアラントイン及び/又はその誘導体併用系はこの動物試験の結果と同等の効果を示した。

以下、実施例を示すが、本発明はこれら実施例に限定されるものではない。配合量は重量%で示す。

実施例 2

(化粧水)

| | |
|----------------------------|------|
| グリセリン | 3.0% |
| プロピレングリコール | 4.0 |
| エタノール | 8.0 |
| ポリオキシエチレン (20モル) オレイルアルコール | 0.5 |
| ヒアルロン酸 | 0.05 |
| アラントイン | 0.1 |
| メチルパラベン | 0.1 |
| クエン酸 | 0.01 |
| クエン酸ソーダ | 0.1 |
| 香料 | 0.05 |
| イオン交換水 | 残量 |

実施例 3

(クリーム)

| | |
|-----------------------------------|------|
| プロピレングリコール | 5.0% |
| ミツロウ | 5.0 |
| セチルアルコール | 4.0 |
| 還元ワノリン | 5.0 |
| スクワラン | 55.0 |
| ステアリン酸グリセリド | 2.0 |
| ポリオキシエチレン (20モル) ソルビタンモノラウリン酸エステル | 2.0 |
| メチルパラベン | 0.1 |
| エチルパラベン | 0.15 |
| ヒアルロン酸ナトリウム | 0.3 |
| アラントイン | 0.1 |
| 香料 | 0.1 |
| イオン交換水 | 残量 |

| | |
|----------------------|--------|
| ポリビニルアルコール | 15.0 % |
| ポリエチレングリコール | 3.0 |
| プロピレングリコール | 7.0 |
| エタノール | 10.0 |
| メチルパラベン | 0.1 |
| ヒアルロン酸 | 0.5 |
| ヒアルロン酸ナトリウム | 0.3 |
| ジヒドロキシアルミニウムアラントイネート | 0.1 |
| 香料 | 0.1 |

| | |
|-----------------------|-------|
| 1,3ブチレングリコール | 7.0 % |
| ポリエチレングリコール | 5.0 |
| エタノール | 5.0 |
| ポリオキシエチレン(60E8)硬化ヒマシ油 | 2.0 |
| 苛性カリ | 0.05 |
| カルボキシビニルポリマー | 0.2 |
| 2-ヘキシルデシルパルミテート | 10.0 |
| スクワラン | 5.0 |
| ミツロウ | 0.5 |
| アラントイン | 0.2 |
| ヒアルロン酸 | 0.3 |
| 防腐剤 | 0.2 |
| 香料 | 0.1 |
| イオン交換水 | 残量 |

出願人 株式会社 資生堂